

リサイクルよりも リデュース・リユースを 市生活環境研修会で講師が強調

9日、リージョンプラザを会場に、市の生活環境研修会が行われました。この会は、これまで生活環境大会として、各町内会の役員等を対象にゴミの分別の重要性などを啓発する機会として行われていましたが、今年度から装いを新たにしました。

講演の講師は環境省環境カウンセラーなどを務める橘由紀夫さん、テーマは「もう一度学びましょう。ごみの分別・ゴミの減量方法・3R」です。

橘氏は冒頭、上越市のゴミのリサイクル率の高さを紹介しながら、リサイクルの重要性を紹介しました。しかし、さらに重要なこととして、リサイクルに頼らないようにすることを強調しました。

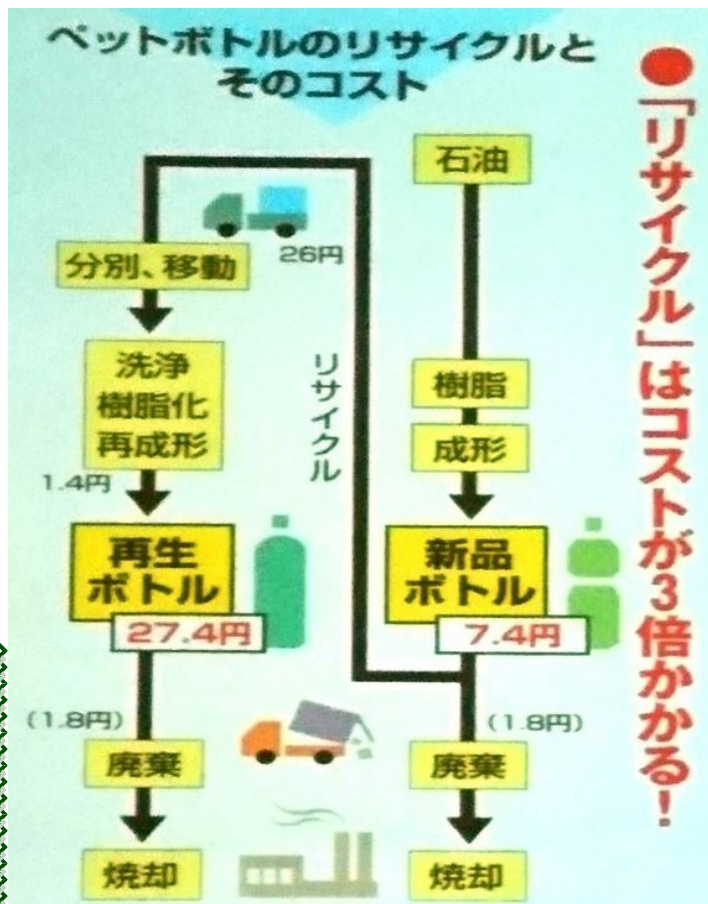
強調されたのは、リサイクルはあくまでもゴミ処理の最後の方法であるという

ことです。まず必要なのはリデュース、つまりゴミを出さないこと。そして2番目にはリユース、つまり繰り返し使うこと、そして、ついに使えなくなったら最後にリサイクルするという考え方が大切だと強調されました。実際、ペットボトルのリサイクルは、新品をつくるよりも3倍ものコストがかかっているとのこと。昨今の日本では、何でもリサイクルできるからといって、どんどん使い捨てにする風潮があるが、それは誤りだという指摘です。

環境問題で進んでいる隣の韓国では、すでに「一回用品禁止令」という制度があり、「使い捨て文化」に別れを告げているとのこと。ヨーロッパ諸国はもっと進んでいるそうで、日本は大きく遅れているとのこと。

その背景には、国民生活よりも企業の利益を優先する政府の姿勢があると指摘。つまり、ゴミを出す企業の責任は一切追及せず、ゴミ処理やリサイクル費用を自治体や市民に負担させているという姿勢です。

やはり大企業さえ儲かればよいという自民党政治が、ゴミ問題にも反映しています。



橘氏の講演スライドより

「グループホームの増設の支援を」 「公共施設のバリアフリー推進を」など

心身障害者福祉団体連合会のみなさんと 市議会厚生常任委員会が懇談

6日、市議会厚生常任委員会（平良木議員が所属）は、上越市中心身障害者福祉団体連合会の代表のみなさんと、市内の障がいをお持ちのみなさんの切実な願いについての懇談を行ないました。

連合会のみなさんの市に対する要望は、「身体障害者用グループホーム増設のため、社会福祉法人、民間企業・団体等へ設置の働きかけを行ってほしい」「災害発生時等の聴覚障害者の安全な避難等のために文字付受信機を貸与してほしい」など6点です。

懇談では、こうした願いの一つひとつについて実態と具体策を詳しく聞き、意見交換をしました。

このうち、「肢体不自由児者が利用できる医療的ケアを提供可能なグループホーム設置に伴う人材確保のための補助制度の創設」では、肢体不自由の方は、本人の意思で動けないた

め、医療的ケアが常に必要であること、自然に暮らしていきたくとも医療的ケアがないと暮らしていけないことなどが切々と訴えられました。

市では医療的ケアが必要な方の短期入所について、「医療型の緊急短期入所用居室確保事業」を行っていますが、これは一時的な対応ですので日常の生活への支援とは異なります。だれもが自分なりに生きていきたいという当たり前の願いをかなえられるようにするために、グループホームにも看護師を配置できるような支援が必要です。

また、「浦川原区に空校舎を活用した上越市立の特別支援学校を整備できた」という願いの背景には、特に13区から高田方面の特別支援学校に通学している児童生徒の保護者の切羽詰まった

思いがあるとのこと。例えば大島区から高田特別支援学校や上越特別支援学校までは30キロメートル以上あり、毎日2往復して送迎しているのが実態で、とてもたいへんであることは想像に難くありません。

「統合のため空いた浦川原区の小学校の校舎の活用を」という願いは、まさに当たり前の願いです。「市内の公共施設における敷地内・館内のバリアフリー化を推進し、専用の観覧席・閲覧席を設置していただきたい」という願いも切実です。

比較的新しい施設は、それなりに設備が整っていますが、古い建物はまだまだ不十分です。例えば、上越文化会館には車いす専用の

客席がありません。リージョンプラザのコンサートホールのように、専用の席を確保してほしいという願いです。文化会館では、中央通路付近を車いすスペースとしてしているようですが、はつきりした区画ではないため、後ろや付近の一般席の客に気兼ねしてしまうという実態があります。コンサートを楽しむのに気兼ねをしなくても半減です。それほど経費もかけずに工夫しだいで設置できそうなのに、一人ひとりの市民を大切にするという姿勢が問われる問題です。

このほかの願いも、それぞれに切実なものばかりです。議会としても、行政と力を合わせて確実に実現していくことが求められます。

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 569 2017年11月19日

連絡先
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)